



# 臨床糖尿病支援ネットワーク

## MANO a MANO

“mano a mano”とはスペイン語で“手から手へ”という意味です



### 小児糖尿病サマーキャンプの再開 (つぼみの会)

【当法人評議員】

緑風荘病院

藤原 恵子 [管理栄養士]

日本での小児糖尿病サマーキャンプは、1963年に丸山 博先生により千葉県の上野海岸で、初めて開催されました。翌年、「つぼみの会」が発足し軽井沢でキャンプが行われ、野辺山、日本平、清里などでも開催されました。1981年からは丸山先生が福島県霊山に療養棟のある専用施設を開設され、充実したキャンプが継続されました。現在は日本各地にキャンプが広がっていますが、病気や治療法に対する正しい理解、同病者の仲間作り、生活の方法を学ぶ場として推奨されています。

そのような伝統ある「つぼみの会」の小児糖尿病サマーキャンプに、ボランティアとして2000年に初めて参加をし、2001年からは本研究会の理事である管理栄養士の西村 一弘先生(駒沢女子大学)と共に栄養スタッフの責任者として、現在も継続しています。ボランティアスタッフは、キャンプ長(医師)、医療(医師や医学生)、看護(看護師・看護学生)、栄養(管理栄養士・栄養学生)、生活(参加経験のある大学生や社会人のOB・OG、その他大学生や社会人)などで構成され、企業の協力も受けています。

私が参加してからのキャンプは福島県霊山で行われており、子供達は大自然の中でキャンプを楽しみました。施設には厨房や食堂もあり、食事、おやつ、遠足用のお弁当、夜勤者の夜食などを、栄養スタッフで調理をし、調理実習(飯盒炊爨)や栄養の授業なども行いました。食事は栄養教育をしながらビュッフェ形式で提供し、一緒に食事をしながら子供達の摂取量を把握して、何かあれば医療や看護のスタッフと連携しました。インスリン製剤の進歩で、カーボカウントを行う子供が増えたので、栄養の授業に組み込み、食事やおやつ糖質量が把握できるようにしました。

そのような中、2011年に東日本大震災があり、数年間は山梨県御殿場の施設で行っていましたが、2018年、2019年に福島県霊山でのキャンプが再開できました。しかし、Covid-19が拡大したため、オンラインキャンプでの実施が数年ありました。Covid-19が少し落ち着いた2022年の秋は、代々木公園で日帰り遠足を行い、野外で簡単調理の実演やおやつを提供をして、子供達に喜んでいただきました。

その後、福島県霊山の施設は諸事情で閉鎖されましたが、キャンプ再開に向けて検討があり、2023年夏に千葉県鴨川の公共施設でキャンプが再開できました。食事は施設の提供ですが、おやつは栄養スタッフで用意してもらいました。大半はカーボカウントを行っていたので、施設の食事の炭水化物量を計算し、各自の盛り付け量から糖質量を換算し子供や医師に伝え、子供と医師が相談してインスリン量を決め、下膳時に摂取量を把握する、という流れで行いました。今年の夏は埼玉県公共施設で開催されることが決まり、会議や下見などの準備が始まっています。

これまでに、つぼみの会の小児糖尿病サマーキャンプに関する栄養スタッフでの取り組みについては、日本糖尿病学会、日本病態栄養学会などで、演題発表や論文文化などを行い、共同研究を重ねて参りました。子供達の食生活の役に立つような、新しいキャンプでの共同研究も再開する予定です。

読んで  
単位を  
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間に於いて50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。

(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出、一部改変しております。)

**問題** 糖尿病性腎症重症化予防プログラムについて誤っているのはどれか、2つ選べ。

1. 糖尿病性腎症は、新規透析導入となる原疾患の約4割を占める
2. 糖尿病性腎症による透析の医療費は高額であり、糖尿病の予防は医療費抑制の観点からも重要である
3. 専門性を有する地域の基幹病院で重症化予防プログラムを策定する
4. 透析患者を対象に積極的に介入し、重症化を防ぐこと目的としている
5. ハイリスク患者を抽出し、かかりつけ医と連携して専門医が介入することを目的としている

## 報告

## 第9回糖尿病看護を語る会

日時: 令和6年3月9日(土)

場所: オープンイノベーションフィールド多摩

3月9日(土)、「第9回糖尿病看護を語る会」が開催されました。基調講演では、済生会向島病院 糖尿病看護特定認定看護師 森 小律恵先生に「糖尿病患者における日常臨床での看護実践～小さな変化に気づくことの大切さ」をテーマに具体的な症例や事例を交えながらご講演いただきました。「認知機能の低下した患者さんを中心に早くキャッチし支援につなげられるか」、「認知機能の低下があってもその状況に応じてできることたくさんあること」、「高齢糖尿病患者の病態を理解し支援することの難しさ」、「糖尿病を長く患うことの大変さ」など、明日からの看護実践のヒントとなる非常に貴重なご講演でした。

第二部では、シンポジストとして日本赤十字社医療センター 糖尿病看護認定看護師 村田 中先生、東海大学 医学部付属病院八王子病院 糖尿病看護認定看護師 久保 麻衣子先生、武蔵野赤十字訪問看護ステーション 糖尿病看護認定看護師 豊島 麻美先生をお招きし「ポストコロナを経て、糖尿病療養支援を語ろう」をテーマにご講演いただきました。コロナ禍にて対応していた現場での変化が、ポストコロナになることで更なる変化を要している現状と課題などをお話いただきました。その後、各グループでコロナ禍を経ての現状を語り合い、共有し糖尿病看護を考えました。

都内での現地開催でしたが、新潟県や遠方からのご参加も多く、活発なディスカッションで非常に有意義な時間となりました。



## 報告

## 糖尿病災害対策委員会 第11回医療者向けセミナー

日時: 令和6年3月11日(月)

オンライン

[当法人評議員] 立川相互病院 長谷部 翼 [理学療法士]

2024年3月11日(月)、『糖尿病災害対策講演会 被災場所によってどのような行動をとるべきか?』をテーマとした医療者向けセミナーがZoom開催されました。丁度13年前に発生した東日本大震災と同日の開催でしたが、126名と多くの方々に参加されました。

第1部の基調講演では、駒沢女子大学/緑風荘病院 管理栄養士の西村 一弘先生より、『自然災害をもう一度振り返る～地域防災計画における災害医療の役割～』というテーマでご講演いただきました。東日本大震災や能登半島地震で栄養士会として災害支援に携ったご経験をもとに、糖尿病患者さんの食事支援を如何に行うべきか、詳細に教えていただきました。

第2部はシンポジウム企画として『地震だけじゃない! 風水害、火山灰、火災、帰宅難民等災害に直面した時、あなたならどう行動しますか?』をテーマに、様々な災害が起こった際にどのような行動を取るべきか、Zoomの投票機能で表に示した質問を参加者に投げかけ、6名のシンポジスト(片山 隆司先生、宮川 高一先生、西村 一弘先生、森 貴幸先生、菅原 加奈美先生、辻野 元祥先生)より経験談や対策方法など、様々な意見をいただくことができました。特に片山先生からは泊江市で起きた風水害、その後の取り組みについて詳しくお話いただき、参加者にとって身近で起きている災害の現実について実感する機会となりました。

防災学者である寺田 寅彦が伝えた「天災は忘れた頃にやってくる」は現代社会でも語り継がれる重要な警句であり、我々は患者さんやご家族などに防災・減災の手段を伝える重要な役割もあります。今回学んだ内容ならびにサバイバルマニュアル(当法人発行)を参考に、居住地や職場での災害対策につなげていただければと思います。

## 表 シンポジウムでのQ&amp;A項目

Q1. あなたは今、災害対策を自宅ですべてしていますか?
Q2. 今、災害対策を職場で準備していますか?
Q3. 19時新宿にて講演会参加時、震度6強の地震がありました。 あなたなら直ちにどのような行動をとりますか?
Q4. 最大降雨時5mの浸水が予想されている職場で働いています。明日台風15号925hPaで接近。あなたなら今すぐどのような行動をとりますか?
Q5. 富士山噴火が数日後に発生する警報が出ました。西東京地域に火山灰が2～10cm積もる予想。あなたなら今、どのような行動をとりますか?
Q6. あなたは本日の講演を聞いて災害対策を強化しようと思われましたか?



## 第58回糖尿病学の進歩

令和6年2月16日(金)～17日(土)

国立京都国際会館

[当法人会員]

海老名総合病院

藁谷 里砂 [理学療法士]

2024年2月16日(金)～17日(土)に国立京都国際会館にて『第58回糖尿病の進歩学』が開催されました。昨年に続き現地とオンラインのハイブリッド開催となり、私は「京都！！現地で講演を聞きたい」と思い足を運びました。学会の現地参加は5年ぶりであり、現場の雰囲気や緊張感がとても新鮮に感じました。今回は2日間聴講した中で、2日目の産業医科大学病院臨床研究推進センター岡田 洋右先生の「糖尿病関連骨粗鬆症up-to-date」聴講内容より情報を提供したいと思います。

糖尿病患者では骨折のリスクが高いことは皆さんご存じだと思います。骨密度が低下している1型糖尿病のみならず、骨密度は正常、または糖尿病のない人よりも高いと言われている2型糖尿病においても骨質が低下することにより骨折のリスクが高まります。更に生活習慣病関連骨折のリスクがあるとして、2型糖尿病、慢性腎不全、慢性閉塞性肺疾患は、骨密度の平均値(YAM)が70%以上・80%未満(危険信号・骨量不足)で骨代謝への影響が強いと考えられ、薬物治療を開始する条件に入っている疾患です。またその中でも糖尿病においては、治療薬であるチアゾリジンを使用している患者において、閉経後の女性の骨折が糖尿病のない人よりも多く報告されていることも骨粗鬆症の治療を行う理由の一つである、と言われていました。糖尿病患者は骨折によりquality of lifeの低下や生命予後の悪化があることを考えると、骨粗鬆症は極めて重要な糖尿病の合併症の一つであると考えられます。しかし、骨粗鬆症や骨折というと整形外科の範疇のように考えられますが、岡田先生は日々診て(見て)いる私たち(内科医や看護師、管理栄養士、理学療法士など)やご自身、家族が素早く体の変化に気付き、治療を開始することが重要であるとも言われていました。そこで、骨粗鬆症のチェックを簡単にできる<骨粗鬆症ワンツーチェック>を講演の中で指導していましたので提示したいと思います。

骨粗鬆症に限らず、糖尿病患者の合併症は様々であり日頃から患者さんの変化を見逃さず早期に治療や予防ができるように取り組んでいきたいと思ひます。



②

### 【骨粗鬆症ワンツーチェック】

#### 準備

壁に踵、お尻、背中をつけて立つ

#### チェック①

壁に後頭部がつきますか？  
壁に後頭部がつけられない方は骨粗鬆症による背骨(胸椎)の骨折により背骨が曲がっていることも考えられます。

#### チェック②

身長が2cm以上低下？  
2cm以上の低下は骨粗鬆症の黄色信号です。25歳より比べて4cm以上の低下がみられた方は背骨(椎体)骨折の恐れが2倍以上になることが報告されています。

読んで  
単位を  
獲得しよう

答え 3, 4 下記の解説をよく読みましょう。

(問題は1ページにあります。)

解説 糖尿病性腎症は、わが国の最大の透析導入原因疾患であり、透析導入を抑制するために糖尿病性腎症の重症化を予防することが、重要な課題となっている。

- : 糖尿病性腎症が占める割合は38.7%(2022年)であり減少傾向にある。
- 
- ×: 「専門性を有する地域の基幹病院」が誤り。都道府県レベルで重症化予防プログラムを策定、保険指導を行う。
- ×: 「透析患者を対象」が誤り。透析導入前の糖尿病性腎症患者について、重症化するリスクの高い者を抽出して介入し、腎不全や人工透析への移行を防止することを目的としている。
- : 同プログラムでは、医師会、専門医、かかりつけ医、保険者などが役割分担をして、有機的連携体制を構築することを目指している。

## 研究会等のセミナー・イベント情報

 主催事業
  共催・後援事業
  その他

 西東京CSII普及啓発プロジェクト 第26回研修会

 申込必要

テーマ：『リプレの新段階，そしてウィズ\*をいかに使いこなすか？』

開催日：2024年6月18日（火）19：20～21：00

会場：Zoomにて開催いたします

参加費：当法人会員 1,000円 / 一般 1,500円

申込：当法人ホームページの「セミナー・イベント情報」よりお申し込みください（6/18締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

 オン  
 ライン

 第10回西東京糖尿病と感染症フォーラム

 申込必要

開催日：2024年6月19日（水）19：30～21：05

会場：Zoomにて開催いたします

申込：セミナープログラムに掲載のURLよりお申し込みください（6/12締切）

問合せ：大正製薬㈱（担当：岩崎） TEL：090-5997-7449

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：3単位

 参加費  
 無料

 オン  
 ライン

 第64回糖尿病診療－最新の動向 [医師・医療スタッフ向け研修講座]

 申込必要

開催日：2024年6月30日（日）10：00～13：30

会場：国立国際医療研究センター 研修センター棟5階 大会議室 / Zoomにて開催

参加費：3,000円

申込：糖尿病情報センターHPに掲載の申込フォームよりお申し込みください（6/23締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：7単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：1単位申請中 他

 ハイブ  
 リッド

 2024年度 西東京糖尿病療養指導プログラム(CDEJ1群)

 申込必要

第20回 西東京教育看護研修会

第8回 西東京臨床検査研修会

第20回 西東京病態栄養研修会

第8回 西東京運動療法研修会

第20回 西東京薬剤研修会

開催日：2024年7月7日（日）9：25～16：30 ※運動療法のみ16：35閉会

会場：Zoomにて開催いたします ※運動療法のみハイブリッド開催(会場：杏林大学 井の頭キャンパス)

参加費：7,000円

申込：当法人ホームページの「重要なお知らせ」または「新着情報」の

「2024年度 西東京糖尿病療養指導プログラムのお申し込みはこちらから」よりお申し込みください。（6/27締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：10単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第1群>：申請中 他

 オン  
 ライン


## 発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局  
 〒185-0012  
 国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802  
 TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478  
<https://www.cad-net.jp/> Email:info@cad-net.jp

## 編集後記



毎年の某大学の講義で、毎年ご同席いただいている大学の先生が、「ポンプのお話、数年前には電波法による制限がありますっておっしゃっていたのに、とうとうAIの時代になりましたか・・・」他はいつも同じ内容ですが、ここだけは毎年更新しています。また「インスリンとグルカゴンの2種類のホルモンを投与するデュアル人工膵臓のポンプを開発」の2015年のスライドは、いまだにネタとして紹介しています。  
 (広報委員 小林 庸子)